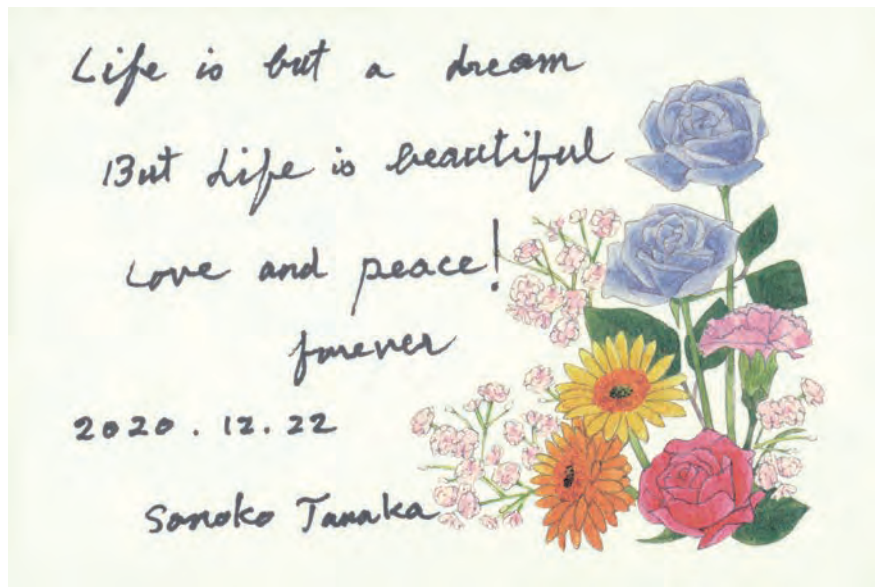


ベアテさん ありがとう

1997年 ~ 2019年





はじめに

戦後50年以上過ぎアメリカ GHQ の極秘事項も次々と公開許可される時代となりました。日本国憲法成立については現在も論議止まないのは周知の通り…

第 24 条男女平等権の草案は通訳ベアテ・シロタ・ゴードンさんの日本女性に対する深い愛情の賜物として実現したと知り驚きと感動をおぼえた事、昨日の様に思い出されます。

ベアテさんは 22 歳の若さで、何故と？

この機会から感謝の気持ちを具体化し全国の日本女性に伝えたいと有志意気投合して「ベアテさんを語る会」を発足。事務局は「女性連絡会内有志」として訪日講演スケジュールのお世話、6ヶ国語デザインスカーフ作成等の活動、当地方にも数回来訪された折の記録の数々、30年誌共々皆様の貴重な思い出・座右の書として大切に頂き度、作成致しました。

私見ではありますが、人生行路・女性の生き方・男女平等、ベアテさんから学んだと申しても過言ではありません。

自由・平等・博愛・戦争放棄・今後の日本・今後の世界・女性連絡会・次世代への飛躍、祈ります。

令和 3 年 5 月 吉日

田 中 園 子

「ベアテさんを語る会」

代 表 田 中 園 子

事務局長 高 田 朝 子

顧 問 奥 村 悠 二



ベアテ・シロタ・ゴードン
Beate Sirota Gordon

1923年、リストの再来と謳われたロシアのピアニスト、レオ・シロタの娘として、ウィーンに誕生。5歳のとき、山田耕筰の招聘で東京音楽学校に赴任する父に伴い、来日。芸術家のサロンとなった乃木坂の家で少女時代を過ごす。

1939年、単身渡米。大学卒業後、戦争情報局やタイム誌で働く。戦争終結によって、1945年、GHQ 民政局のスタッフとして再来日。戦時下の日本で外国人として苦しい生活を余儀なくされていた両親と劇的な再会を果たす。22歳の若さで日本国憲法草案の人権条項作成に携わり、女性の権利を明記することに尽力。その後、日本、アジアの文化発展にかかわる活動を続け、72歳の現在も、地球規模の芸術キャラバン(文化交流事業)の実現を目指した。2012年12月30日膵臓がんのためニューヨークの自宅89才の人生に幕を閉じた。

**To the Member of the “Beate-San wo Kataru Kai”
Prospectus for “The Beate Sirota Gordon Society”**

I have great love and respect for the women of Japan.

The women here who know of my efforts in drafting the equal rights clause of the Japanese constitution, 53 years ago when I was young, wish to disseminate this fact, and have created the “Let’s introduce Beate Association.”

The organization wishes to instill respect for and pride in Article 24, the clause for equal rights, and wants to join the women of the world in forwarding the cause of feminism.

I feel very honored and thankful. With faith in love and peace, we will progress to the 21st century.

I pray from my heart for the women of Japan to have courage.

September.1998
Beate Sirota Gordon

ベアテさんを語る会」の皆様へ

私は日本の女性に心からの親しみと尊敬の念を持っています。

今から53年前、私が憲法草案にたずさわり、人権と男女平等条項に若い情熱を傾けたことを知った人々が、その果たした役割を広めたいとこのたび「ベアテさんを語る会」を結成して活動を始められました。

この会は日本国憲法24条の精神を尊び誇りにし、全世界の女性たちとも手を取り合ってフェミニズムを推進して行きたいと願っておられます。

私は、大変光栄に思いますとともに感謝しています。愛と平和の信念を持って21世紀に向かって前進いたしましょう。

どうぞ日本の女性の心意気でがんばって下さいますことを祈ります。

1998.9
ベアテ・シロタ・ゴードン

新憲法の人権条項草案作成に参加

米のゴ女史 招き講演会

日本国憲法の人権条項の草案作成に携わった米国女性ベアテ・シロタ・ゴードンさん(左)の講演が、十一月十三日午後一時三十分から江南市民文化会館で開かれる。講演を企画した同市の江南女性団体連絡協議会は準備に忙しい日を送っている。

若い女性参加を

今春、東海市でゴードンさんを迎えた集いがあり、参加した同協議会メンバーが講演に感動、「ぜひ江南にも招きたい」と開催を熱望。この動きに生涯学習の一環として公開講座を行っている江南市と同市の江南女子短大が賛同し、講座の一つとして開催することを決めた。

来月13日 文化会館で開催

ゴードンさんはウィーン生まれ。ピアニストの父とともに五歳で来日、少女時代を過ごした。戦後、再来日した二十二歳のゴードンさんは、連合国軍総司令部(GHQ)のスタッフとして「男尊女卑の思想を一新し、女性の歴史を変えて新憲法の草案作成に携わった彼女に多くの人に触れたい」とPR。特に「若い女性に聞いてもらいたい」という。

また、講演の後、午後六時三十分から犬山市の犬山ホテルでゴードンさんを囲む会も開かれる。会費は著書代などを含めて一万円(ゴードンさんの著書の配布なども含む)。問い合わせは、田中園子さん(電話0587(54)6543)へ。

準備に奔走 江南女性団体連絡協



ゴードンさんの講演の前に、打ち合わせを重ねる江南女性団体連絡協議会のメンバーら(江南市民体育会館で)

日本国憲法起草に携わったベアテ・シロタ・ゴードンさんの功績を広める **田中 園子**さん

一九九七年
中日新聞

初対面の相手でも包みこむ人柄に魅せられました

愛知県江南市の女性連絡協議会代表。一六五センチの長身。宝塚歌劇の男役のよう。日本国憲法草案の男女平等条項を担当した元GHQ（連合国軍総司令部）民政局員、ベアテ・シロタ・ゴードンさん（左）と米国ニューヨーク在住のドラマチックな人生を功績を広める役に名乗りを上げた一人だ。

起草当時二十二歳だったベアテさんは近年、その舞台裏を日本各地で語っている。昨年十一月、市民公開講座の講師に招かれた。

その講演を聴いて、平和憲法を大切に、男女平等も平和も核廃絶も女性たちがキャンペーンを続けなければなら

この人



ないと考えた。連絡協議会の前身の同市女性団体連絡会が開いた歓迎レセプションでは、「初対面の相手でも包み込むような人柄に魅せられました」という。

ベアテさんの魅力を多くの人に伝える草の根運動を女性有志で考え、全国に情報発信した。ベアテさんに関して

著書、ドキュメンタリービデオ、演劇が既にあるが、もっと広範な運動を模索。古事記の元を暗記していた穂田阿礼（ひえだのあれ）にならって、「戦争もマッカーサー（元GHQ最高司令官）も知らない世代に、選層を過ぎた私が穂田阿礼子になる」と、しゃれてみせる。

子育てを終えた昭和四十八年から江南市で健康体操を指導している。幼児から高齢者までを相手にしているだけに話術は巧みで、「出会い、触れ合い、話と和と輪」といった言葉がポンポン飛び出す。和やかに話し、人の輪をつくる六十三歳。

（川崎 宏三）



1998.6.10 新聞記事



於 大阪プラザホテルにて 1998.6.7 (日) ベアテさんを囲む会 発足式



三重県津アイリス
柏木はるみ代表



ベアテさんを世に紹介した
ドキュメンタリー工房社長
鈴木昭典氏



ドキュメンタリー工房プロデューサー
平岡磨紀子さん
1945年のクリスマス 構成・文





江南市役所 表敬訪問 大池市長と



池田弁護士と対談するゴードン
さん ⑤—江南市民文化会館で

“女性の権利”切々と

憲法の草案作成 米・ゴードンさん 市民ら聞き入る

江南で講演会

日本国憲法の人権条項の「女性ベアテ・シロタ・ゴードン」の講演(江南市民文化会館)で、市民ら聞き入る。

十三日、江南市民文化会館であった。ゴードンさんは自分たちが草案した憲法が今後も十分に生きることを願っている」と約四百人の来場者に訴えた。二十

二歳で連合国軍総司令部のスタッフとして憲法草案作成に携わり、女性の権利を明記することに尽力した。長年の沈黙を破り、近年は当時の模様などの講演を行っている。

この日のテーマは「激動の20世紀を生き延びて」。ゴードンさんは天皇制と同様に議論を呼びながら女性の権利が憲法に盛り込まれた過程を説明。非嫡出子の差別をなくすなど多くの条項が削除される中、配偶者の選

択の権利などが残されたことで「心が重くても満足しなければならなかった」と当時の心情を吐露した。

女性の地位は向上しているが「習慣が変わるには時間がかかる。権利を維持していくには毎日が戦い」と述べた。最後に「頑張り」ことを日本で習ったとして「何事も途中で投げ出さないでほしい」と来場者にメッセージを送った。

'97 公開講座

生き生きライフステージ

主催 江南女子短期大学・江南市・江南市教育委員会 協賛 江南女性団体連絡会

の二十世紀を生き
女共同参画社会を
実現するために

講師 池田桂子
コキエ

